

## エゾリス



2013 年が明けてからの森林作業は、低気圧が次から次へと北海道を通過して快晴日は皆無でした。午後から天気が崩れて昼あがりの日が多かったのです。4 月になってやっと日射でまばゆい日が来たかと思うと又も爆弾低気圧が日本列島を縦断して各地に大雨を降らせて風害と洪水被害をもたらしました。澄川の森ではお蔭で異例の高さの雪解けが進み、積雪がかなり低くなったのは嬉しいことでしたが、奥の物置が床上浸水し、

機材を疎開・乾燥させる作業を余儀なくされました。

そんな中でも春の気配は鋸をいれたイタヤカエデから樹液がしたたるようになり、エゾリスが雪上に降りて新しい切り株から滲みでる樹液を求めて移動するのをしばしば見かけるようになりました。エゾリスは冬眠しません。酷寒の中でも樹木の冬芽やカラマツの実を食べて生き延びるのです。鳥の巣箱の入口を齧って広げ、寝床にしてくれたりします。

澄川では昼飯はテントの前で摂りますが、そこから WC の方向に見えるギンドロの高い枝にエゾリスの巣があり、出入りする様子が見えることもあります。

北海道神宮では神殿正門の脇の守衛さんたちになついているエゾリスがいて、手で触れることが出来そうな間合いまで許してくれていましたので、間近で観察させてもらっていました。姿もしくさも可愛らしいので出会いはいつも心が和みます。

手で触れるといえば懐かしい光景があります。今(2013 年)は大学 2 年と高校 3 年になった男児の孫がまだ上が幼稚園時代に西岡公園に連れていきました。そこで巣立ち直後と思われる 4 匹の子リスのいるエゾリスの一家に出会ったのです。トドマツの手が届きそうな下枝の幹あたりでたわむれている子リスたち、母リスは我々を少しは警戒していましたが、幼児に対してはそれが薄れている様子が見えましたので、入園前の下の孫の後ろから両手でさし揚げて子リスを触らせたのです。一匹の子リスは逃げることもなく、孫の手がさわるのを許してくれていました。野生の子リスに触れた記憶が孫に残っているのかどうかは確認していませんが、私の記憶にははっきりと刻まれています。

エゾリスは昆虫や小鳥の卵などの動物質も食べると、ものの本には書いてあります。セミもその対象とあります。夏の森でしばしばセミの悲鳴を聞くことがあり、ほとんどはカラスの仕業と思っていますが、エゾリスに捕獲されたものも含まれているらしいのです。これからはセミの悲鳴が聞こえたら下手人を確認してみようと思っています。

